

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社を取り巻く市場環境は、海外においては、米中貿易摩擦を背景に、昨秋以降、中国市場で設備投資の抑制傾向等が顕在化してきました。国内は、その影響を受けて一部市場に減速感が出てきましたが、老朽設備の更新や自動化、省力化、省エネ化に向けた投資等により、全体として需要が堅調に推移しました。

こうしたなか、当第3四半期累計決算は、10月～12月期において一部の事業で業績は鈍化したものの、対前年で増収増益となり、営業損益、純損益は過去最高を更新しました。

なお、通期業績予想は、第3四半期累計決算ならびに先行きの不透明感が強まっている足元の状況を鑑み、下方修正することといたしました。

当社は、2019年度を起点とし、2023年度を最終年度とする5か年中期経営計画の策定を進めております。エネルギー・環境技術を核にして、安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年2月

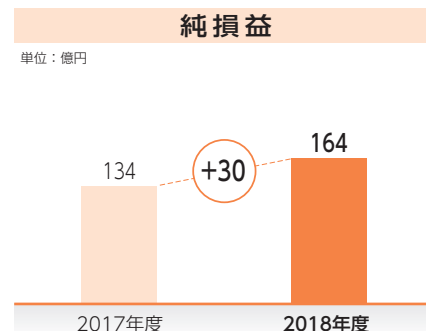
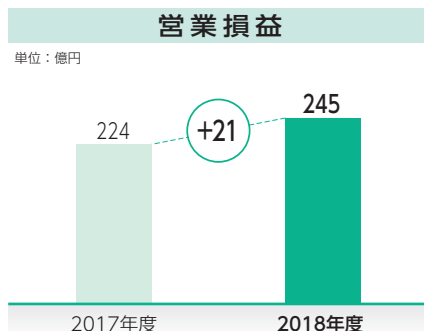
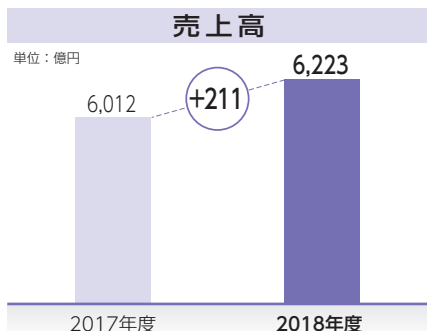
富士電機株式会社
代表取締役社長

北澤通宏



2018年度第3四半期累計決算（4月～12月）

営業損益、純損益ともに過去最高を更新



セグメント別状況

		売上高			営業損益		
		2017年度	2018年度	増減	2017年度	2018年度	増減
パワエレシステム	エネルギーソリューション	1,422	1,443	20	47	79	32
	インダストリーソリューション	2,057	2,124	66	28	43	15
発電		558	711	153	14	△5	△19
電子デバイス		986	1,038	52	109	117	8
食品流通		862	817	△45	44	32	△13
その他		455	459	4	22	18	△5
消去または全社		△330	△369	△40	△41	△39	2
合計		6,012	6,223	211	224	245	21

売上高

第3四半期累計で前年同期に比べ増収となりました。

エネルギーソリューションは、施設・電源システム分野の大口案件が増加するとともに、器具分野において受配電盤メーカーの需要が増加しました。

インダストリーソリューションは、国内向け設備投資増を主因とする、低圧インバータ、FAシステムを中心としたファクトリーオートメーション分野、工場向け等の電気設備工事分野、公共向け情報システム案件の需要が堅調なITソリューション分野が増加しました。

発電は、火力・地熱発電設備および太陽光発電システムの案件が増加しました。

電子デバイスは、半導体において、産業分野が今下期以降に減速したものの、自動車分野向けの需要が堅調に推移したことに加え、ハードディスク駆動装置に搭載されるディスク媒体の需要が増加しました。

食品流通は、自販機の需要が増加しましたが、店舗設備機器等の需要が減少しました。

営業損益

第3四半期からの需要減速

ならびに、発電の大口案件のコストアップ等が影響したものの、上期までの堅調な需要による売上高の増加および原価低減等の推進により、前年同期に比べ増益となりました。

純損益

営業損益の増加に加え、営業外損益の改善により、前年同期に比べ増益となりました。

2018年度 通期業績予想

第3四半期累計決算ならびに、中国市場を中心とする市況の変調を踏まえ、通期業績予想を下記の通り下方修正しました。

	単位：億円		
	売上高	営業損益	純損益
2017年度実績	8,935	560	378
2018年度予想(10/25予想)	9,100	610	415
2018年度予想(1/31予想)	9,050	580	380
増減(1/31予想－10/25予想)	△50	△30	△35

第4四半期為替レート(前回発表時と変更なし)

1ドル	105円
1ユーロ	125円
1人民元	16.5円

セグメント別通期予想

	売上高			営業損益			
	2018年度(10/25予想)	2018年度(1/31予想)	増減	2018年度(10/25予想)	2018年度(1/31予想)	増減	
パワエレシステム	エネルギーソリューション	2,250	2,250	0	174	174	0
	インダストリーソリューション	3,230	3,230	0	192	192	0
発電		1,020	1,020	0	62	42	△20
電子デバイス		1,400	1,340	△60	159	150	△9
食品流通		1,130	1,130	0	62	62	0
その他		621	621	0	24	24	0
消去または全社		△551	△541	10	△64	△65	△1
合計		9,100	9,050	△50	610	580	△30

TOPICS 自動車分野向けパワー半導体の生産能力増強投資

世界的な環境規制を背景に、自動車電動化の動きが加速しています。

こうしたなか当社は、電気自動車やハイブリッド自動車等のモータ駆動を制御するキーデバイスであるパワー半導体の生産能力増強を目的に、この度、約250億円の設備投資を行うこととしました。



自動車分野向けパワー半導体



主な投資先となる山梨製作所

ご報告 工場視察会 & 富士電機システムソリューション展

毎年ご好評をいただいている株主様向け工場視察会を4工場で開催しました。加えて、今年度は営業活動の一環として開催した展示会「富士電機システムソリューション展(福岡)」に株主様をご招待し、合わせて498名にご参加いただきました。

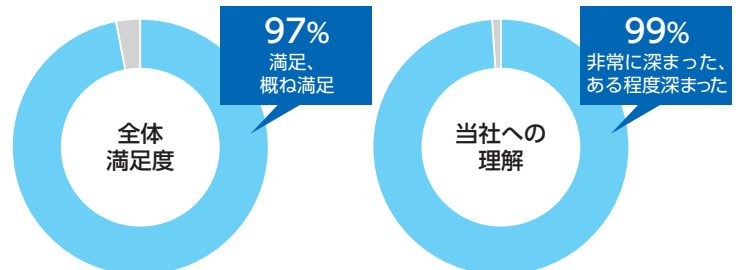
どちらの企画にも多くのご応募をいただきましたこと、誠にありがとうございました。今後も当社をより一層ご理解いただく機会として、このような活動を継続して実施していきます。

鈴鹿工場 (10月10日)	東京工場 (11月14日)	神戸工場 (11月20日)	千葉工場 (11月22日)
モータの自動組立工程	情報・制御盤の組立工程	板金の加工工程	変圧器の組立工程



参加者アンケート結果

最適な生産設備を実現する組立加工最適制御システム



※アンケートにご協力いただきました株主の皆様、誠にありがとうございました。

「親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益」は、本報告書においては「純損益」と表記しています。

本報告書の将来についての計画や戦略、業績見通しに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。

富士電機株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番2号(ゲートシティ大崎イーストタワー)
電話 03-5435-7111
<https://www.fujielectric.co.jp>

UD FONT ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。